
ヒカルの碁(転生)

水禍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヒカルの碁（転生）

【Nコード】

N3520H

【作者名】

水禍

【あらすじ】

これは主人公が転生しちゃうお話です。主人公は最強設定。ヒカルの妹です。

第2の人生1（前書き）

これはヒカルの妹に転生する小説なので嫌って方はみないで下さい。

第2の人生1

それは突然の事だった。

私は夢を見ていた。

ヒカルの碁の夢を……

すると突然周りが光って私が目を覚ますと……

目の前にはヒカルの顔があった。

見た目は5歳位だろうが大きな目でこちらを見ていた。
私と目が合つと、ニコツと笑って

「おはよう、祐奈！」

と言った。

それから5年――

私は5歳になった。

私はヒカルの妹になっていた。しかも原作とは違い、
ヒカルとアキラとあかりが幼なじみだったのだ！

これを知ったときは心臓止まるかと思ったね（笑）

だからヒカルもアキラもあかりも囲碁をやっていた。
みんな2歳位から始めたらしいから結構強いはずだ。

私は前の世界で最強無敵少女と呼ばれていて、

7冠王だったので佐為よりも強いと思う。

私も囲碁を始めたので、今も打っている。今日はアキラの家で打っていた。

結果は私の全勝。

「「「祐奈強い!!!」」」

3人が言った。

『有難う。みんなも強いじゃん!!』

私が笑顔で言ったら3人が顔を赤くして、

「「「／／／有難う」」」

と言った。

私は人からみて美少女らしい。

それから検討して、アキラの家に泊まることになったので、私は先に眠った。

ヒカル達がまだ打っていたので、

私はヒカル達が打つ碁石の音を聞きながら意識をとばした。

オマケ

この後、ヒカル達は夜中に検討で喧嘩して、すごく怒られたらしい。

第2の人生1（後書き）

楽しんで頂けたでしょうか？

出来れば感想お願いします。

第2の人生2

翌日、私は4:30に起きて、朝食の準備を手伝ってからみんなを起こしに行った。

—5:00—

『アキ兄、ヒ力兄

あか姉 起きて!!』

「ん？祐奈？」

まずアキラが起きた。

『おはようアキ兄!』

「おはよう祐奈

ヒカルは僕が起こすからあかりを起こしてくれる?」

『うん!わかった!』

と言うわけで、あか姉を起こした。

『おはよう!あか姉!』

「ふあゝ おはよう祐奈」

私がまだ眠そうなあかりを見ると……

「はよ!祐奈!」

ヒカルが起きてきた。

『ヒカ兄！おはよ！』

でもまだ眠そう（苦笑）

とりあえず私とアキラで1局打った。

結果私の15目半勝ち。その後4人で検討していると……………

「皆さん朝食が出来ましたよ。」

アキママが来て言った。みんなが食べ終わって話してると……

「なあ！俺爺ちゃんに会いに行くんだけど、おまえ等も来ねえ？」

ヒカルが聞いてきたからみんな行く事になった。

――30分後――

「『ただいまー』」

「『おじゃまします』」

私達は爺ちゃんの家に行って爺ちゃんの話に飽きたので、みんなで蔵に忍び込んだ。

そして碁盤と碁石を見つけた。

みんな碁盤のシミが見えるみたい。

『「「「なんだろう？」

このシミ」「」』

みんなが同時に言った。すると突然碁盤が光り――

【あまねく神よ。

【感謝します】

—と言う声がした—

『誰ですか？』

私は聞いた。

【私は藤原佐為です。】

はあ（へ、；）ついに来ちゃったよ。

まあ私は空気をよんで

『ふじわらのさい？』

と子供口調で言った。

【はい。】

佐為が言つと、みんなが

「「「なんでここに？」」「」」

佐為は少し暗い顔をして

【私は、平安の都で大君に囲碁を教えていました。】

それから佐為は少しずつ話し出した。私達は佐為の不幸と碁に対する気持ちを知った。

それからみんなで対局しようって事になってアキラの家で対局した。

結果

私とアキラ

私の15目半勝ち

アキラとヒカル

アキラの2目勝ち

私とあかり

私の16目勝ち

あかりとヒカル

ヒカルの5目半勝ち

私とヒカル

私の14目勝ち

アキラとあかり

アキラの7目半勝ち

となった。

佐為がまだ打ってないが、私が明日入学式なので解散した。
佐為は私とヒカルについて来た。

【4人の中では祐奈が一番強いんですね！】

佐為が言ったらヒカルが

「そうなんだよな
でも俺も強いだろ？」

自慢気に言った。

家について明日の準備をして、ヒカルと話していると、

「明日は佐為も入れてみんなで対局しようぜ！」
と笑っていた

佐為も

【はい！明日が楽しみですな。】

嬉しそうに微笑んだ。

『私そろそろ寝るね！！』

「【ああ（ええ） おやすみ（なさい）】」

2人に言って私は布団に入り目を閉じた。

第2の人生2（後書き）

是非感想お願いします

）（・・・・・＊）

第2の人生3

―入学式―

『あーやつとおわった』

私がとても長い校長の話を聞いてぐったりしていたら

「ねえーあの2人格いい！」

「あの人かわいくね？」

と言う声がした。

私が声の方向を見ると…

「「祐奈！帰ろ」」

みんながいた。

ついでに佐為も立っている。

『うん！』

私は返事をしてみんなの所に行った。

『まずはお母さん達の所に行く？』

「おう！そうだな」

『みんなの親も一緒かなあ？』

「多分そうだね。」

『アキ兄は一緒か……』

あか姉も多分一緒だから………』

などと話していると、

「ヒカル！祐奈！お母さん今からみんなと話してるから、適当に帰っててくれる？」

『「わかった！」』

ってことで、みんなで暮会所に来ました！
私は暮会所初めてです！早速入ると……

「あら！いらつしゃい。そこの女の子は？」

「俺の妹の祐奈って言っんだ！」

『こんにちは！』

ヒカ兄 このお姉さんだあれ？』

一応お姉さんって言っておいた。

「この人は市川さんだよ！」

ヒカルが言ってきた。

私は市姉とよぶか（．．）

『宜しく願います！市姉！』

「礼儀正しいわね〜！
本当に進藤君の妹？」

と言われた。

アキラとあかりが少しピシリと固まってから、苦笑した。

佐為は2人を見て、頭に？を浮かべていた。

ヒカルと私は少しムツとしてる。

「そんな事言っくなよ市川さん！」

ヒカルが少し強く言って私の頭を撫でてきた。

私は兄妹なのに否定されるのが大嫌いだった。

今までと同じような事があったのだ。

『私とヒカルは兄妹です！似てないなんて言わないで下さい！』

私が泣きそうな声で言つと……………

「ごめんなさいね！！」

もう言わないから許してくれる？」

と言ってきた。

私が渋々

『……………わかりました……………』

市川さんを許すとヒカルが頭をポンポンと軽く叩いて

「よし！じゃあ打とうぜ！」

笑顔でみんなに言った。

「うん、そうだね。」

誰から佐為と打つ？」

アキラのこの言葉で私が最後、ヒカルが最初、あかりが2番、アキラが3番になった。

結果

【負けました……】

『ありがとうございます』

私以外は佐為に負けて、私は勝った。

【やっぱり強いですね】

「そうだよ！祐奈ってやっぱり強いんだよ！」

『ありがと！あか姉！ 佐為！』

「なんでそんなに強いんだよ！祐奈」

「確かに始めたばかりでこの強さはすごいね。」

『えへへ！ありがと！』

みんなと話していると、

「塔矢先生！いらっしやいませ！！」

「ああ」

アキパパが来たみたい。

「対局していたのか？」

『「「「うん！（はい！）」」」』

私達が返事をすると、

「名人！ここにいらっしゃったのですか！」

『ヒカ兄、アキ兄、

あか姉　この人誰？』

私は聞いた。

「この人は緒方さんだよ」
アキラが答えた。

『おがたさん？』

私が口に出して言うと、緒方はこちらをみて、

「君達もいたのか、あれ？その子は？」

「「「俺ヒカルの妹です！」」」

「そうか、宜しく」

『……宜しく願います。』

とりあえず挨拶して、みんなとこれからどうするか話し合った。

私はみんなに聞きたいことがあったので聞いた。

『みんなプロになるんでしょ？』

次の院生試験明日からだけど受けるの？』

みんな少し考えていた。私が見てると、佐為が、

【いんせい？いんせいってなんですか？】

と聞いてきたので、

『院生はね、プロって言う囲碁を仕事とする人になるためになるものなんだ！』

【へえ、祐奈は受けるのですか？】

『私は6年生になったらかな！』

私がいい終わると

「俺は受けるぜ！」

「じゃあ僕も受けようかな」

「2人が受けるなら…」

どうやらみんな受けるみたい
そこに丁度良くみんなの親が来た。
みんな受ける事を伝えてるみたい。

『明日受ける？』

みんなが頷いた。

『じゃあ明日お弁当もってくね!』

私達は約束して、家に帰った。

『ヒカ兄受かってね!!』

「当たり前だろ〜!」

【頑張ってくださいね!
ヒカル!】

「勿論!!」

3人で笑いながら帰った。
もう外は暗かった

『明日が楽しみだな〜』
そして私は眠りにつく。

第2の人生3（後書き）

楽しんで頂けましたか？駄文ですいません（<―>。
）

第2の人生4

7月3日――

私は朝起きて、お弁当の用意をしていた。

ヒカルと佐為は私が起きる前、あかりと一緒にアキラの家に行った。どうやら一緒に行くらしい。

『……………よし！

出来た！』

私がお弁当を作り終わると11：00になっていた。ここからゆつたりと歩けば12：00に着くはずだ。しかし、私はみんなが持つて行かなくてはならない、棋譜を見つけた。

『なんでここに棋譜があるの！？』

ヒカルのだけならたいして驚かなかったが、棋譜は3枚のほずが9枚あったのだ。

祐奈はとりあえず急いで棋院にむかった。

『行ってきます！』

その頃棋院では――

「ヒカル！どうするんだ（の）！？」「

「どうしよう。(。；)」

【どうしようじゃありませんよ！ヒカル！】

大声で口喧嘩が行われていた。その声を聞いて

「どうしたんだい？

あれ？アキラ君じゃないか！」

天野が駆けつけると……

「ヒカルが僕達の棋譜を忘れてきたんです！」

「ヒカル？」

「この人です。」

アキラに背を押され

「どうすんのよ！ヒカル！」

【そうですよ！】

あかりと佐為に責められるヒカルがいた。

『着いた！ 早くさがさなきゃ！』

私は走って、棋院の中に入って行った。私は階段で五階までいくと

……

「どうするんだね？ 3人ともこのままじゃ受けられないよ？」

と言われてる3人と佐為を見つけた。

『ヒカ兄！ アキ兄！

あか姉！』

私が声をかけると、みんながこっちを向いて

【「「「祐奈！」「」」】

『みんな！ 棋譜持ってきたよ！』

私は棋譜を振りながら、みんなの所へ行った。

「サンキュー！ 祐奈！」

【これで試験

が受けられますね！】

「まったく、祐奈が持って来なかったらどうするつもりだったんだ！」

「本当よ！ Ψ（、（）Ψ」

『まあ、良いじゃん！

早く受けてきなよ！」
背中を押して言った。

私は3人の

『後、30分で試験終了時間だよ?』

3人は私が言い終わると同時に走り出した。
すると、天野が

「君は受けないのか?」と言った。

『私は6年生になったら受けようと思って、それに、棋譜も書いてないし。』

「君は強いのか?」

『（ちょっとしつこいな……）3人に聞いてみればわかりますよ?』そう言っで、私は自動販売機の方へ向かった。

——15分後——

3人は無事合格して、
祐奈を探しに行った。
途中で天野を見つけ、

「天野さん、祐奈知りませんか?」

ヒカルが聞いた。

「さつき自動販売機の方へ行ったよ。
あの子は強いのか？」

天野が3人に言い終わる前に

【「「^{です}勿論！」「」】

息ピッタリで言った。

まあ、佐為の声は聞こえてないが……

「そんなに強いのなら試験を受ければいいのに」

「そうなんだよね」

「そうだよね。」

「ねえ、受けさせようよ！ 棋譜はこの
前打ったのを並べて見せればいいのよ！」

【「そうですよ！」

プロになればみんなともっと一緒ですし。】

そして 私、進藤祐奈は勝手に試

験を受けることになっていた。

第2の人生4（後書き）

今、書いてるので待って下さい！
でいただき感謝です（、艸、）

読ん

第2の人生5（前書き）

前回の続きなので、短いです。

第2の人生5

私はさっき買ったコーラを飲んでいた。
足音が聞こえてきた。

「ん？」

「って何！？みんなどうしたの！？」

私が驚いたのも無理はない。

何故ならみんなが鬼のような顔で此方に走って来たのだ。

【「「祐奈！！！」「」」】

と呼ばれたと思ったら、腕を捕まれ何処かの部屋に入った。

「祐奈！試験受ける！」

「お願い！受けて！」

「受かったらまたみんな一緒だから受けてくれないか？」

【みんな祐奈と一緒にいたいんですよ。】

私は断ろうとしたが、あまりにも必死だったので

「はあ（；・ー・）＝3
わかったよ。」

と返事をした。

それを聞いたみんなは、すぐに碁石を碁盤に並べ始めた。

私は意味がわからず、

考えていると……

【祐奈には棋譜が無いでしょう？

だからこの前打った対局を並べようということになったのですよ。】

佐為が説明してくれた。

みんなのためにも、

どうせ受けるなら、合格しようと私は思った。そして試験が始まった。

さつきから碁石の音が響いている。

——パチッ——パチ——

——パチ——パチ——

よく聞くと、後者の音が速い。

この試験は祐奈が白、
つまり、後者が祐奈だ。

「ま、負けました」

『有難うございました』

結果は私の23目勝ち。

「祐奈は合格ですか？」

アキラが微笑みながら言った。

「ああ、勿論だ。」

【『「「「「 やった！」「」「』」】

5人は同時に言い、
笑い出した。

こうして、私は院生になりました。
これからも院生で頑張ります。（@^O^@）

「なあ、さっき塔矢アキラが来た。」

「えっ！？まじで!？」

次は院生メンバー
登場です。ヽ(^^)
下はオマケ

試験が終わり、私達は院生の人達が集まっている所へ向かった。

『そつえば、良く受けられたよね！試験』

そう、院生試験とは今日、明日で受けられるものではないのだ。

「僕のお父さんが紹介状出してくれてたんだよ。」

しかし、棋譜が無ければ、試験を受けられなかった。

「祐奈が持つて来なかったら、やばかったな」

「ヒカルが忘れたのが悪いと思う」

【そうですよ。これからこんな事無いようにして下さい。】

という話があったとか

第2の人生5（後書き）

短くてすいません。

第2の人生6

私達は中から声のする部屋に入った。

和谷と伊角は対局の検討をしていたが、4人——主にアキラを見て

「お！来たぜ。」

塔矢と……誰だ？

伊角さん、わかる？」

「さあ？わからないな。話しかけてみる？」

「そうだな！じゃあ行こうぜ！！」

と話して、祐奈達の方へ歩いた。

「よっ！受かったか？」

「おう！3人ともな。」

「3人ってこの子も？」

ヒカルが答えると、伊角が聞いた。

『私の事だよね、

まあ 無理矢理だったけどね（；「（（ジ」

私はヒカルとアキラとあかりを見ながら言った。

「（－ －；）い、いいじゃねーか受かったんだし！」

「そうだよね！」

「そうだよ！」

『（佐為も止めなかったしね（黒））』

【すみません……】

この時みんなが祐奈を怒らせないようにしようと思った。

「お前達の名前は？」

塔矢は知ってるけど」

「まあ塔矢は有名だしなあ〜！」

あ！俺は進藤 ヒカル！」

『同じく進藤 祐奈です宜しくお願いします。』

「あれ？兄妹？」

「そうだけ！」

その時和谷が禁句を言った。

「似てね〜（笑）」

瞬間、4人の背中に冷や汗が流れた。

『……私、帰る。』

祐奈は弁当を置いて、スタスタと帰ってしまい、和谷は3人と佐為に睨まれ、うう……と言いながら頭を抱えてしまった。

「どうしよう……」

「どうしようじゃねー！明日祐奈に謝れよ！」

ヒカルはそう言ってアキラとあかりと佐為を連れて行ってしまった。

明日はどうなるのでしょうか？

第2の人生6（後書き）

ちよゝ短い。スイマセン（＋
|＋
）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3520h/>

ヒカルの碁(転生)

2010年10月12日17時05分発行